

I 西表島産ユビナガチビワムシの培養試験

当支場が平成元年10月17日に沖縄県西表島船浦の河口域より西表島産ワムシ（平成元年度報告済み）と一緒に採取し、分離したチビワムシ属(?)のワムシは昭和61年度報告済みのユビナガチビワムシ *Colurella adriatica* EHRENBERG に酷似し、大きさも被甲長 $90.1 \pm 3.6 \mu m$ ($81.0 \sim 97.4 \mu m$)、甲高 $54.3 \pm 2.3 \mu m$ ($48.1 \sim 60.3 \mu m$) で、ユビナガチビワムシの被甲長 $70.4 \sim 99.5 \mu m$ 、甲高 $41.3 \sim 63.1 \mu m$ とほぼ同じである。（写真1, 2）

この種の同定はまだなされていないが、ユビナガチビワムシと同一種であると推察されるので、西表島産ユビナガチビワムシと仮称することにした。

被甲長及び甲高の組成を図1に、被甲長と甲高の関係を図2に示した。被甲長と甲高の間にはほとんど相関がなく、甲高は被甲長に関係なく、ほぼ一定であり、これはユビナガチビワムシと同様である。

西表島産ユビナガチビワムシは卵径及び孵化仔魚が小さい魚種の初期餌料に適した餌料と考えられるので、この種の培養方法について検討することにした。

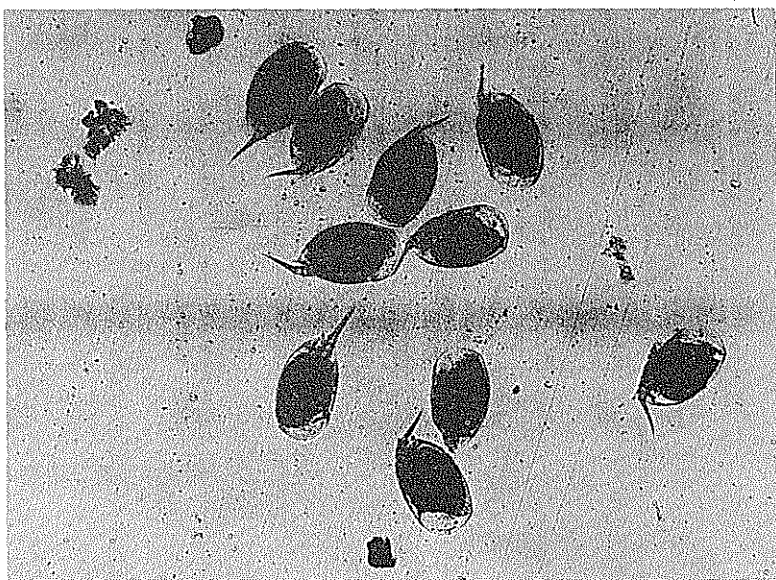


写真1 西表島産ユビナガチビワムシ (×150)

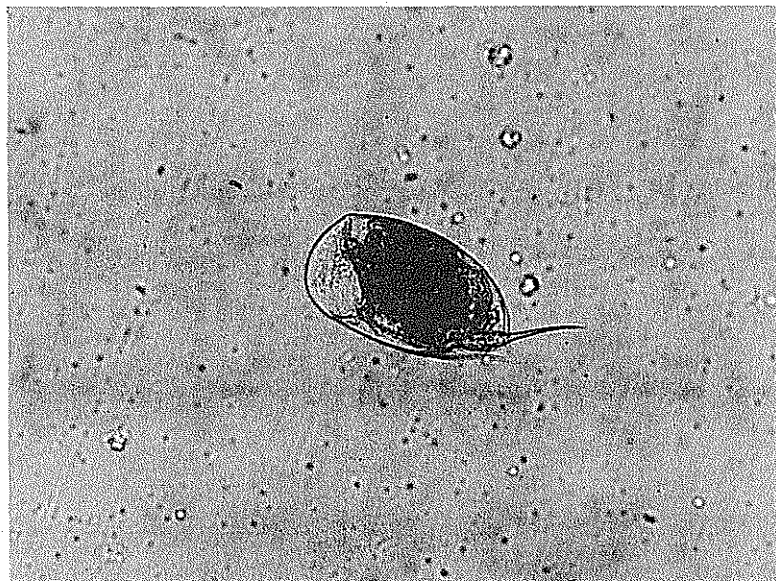


写真1 西表島産ユビナガチビワムシ (×300)

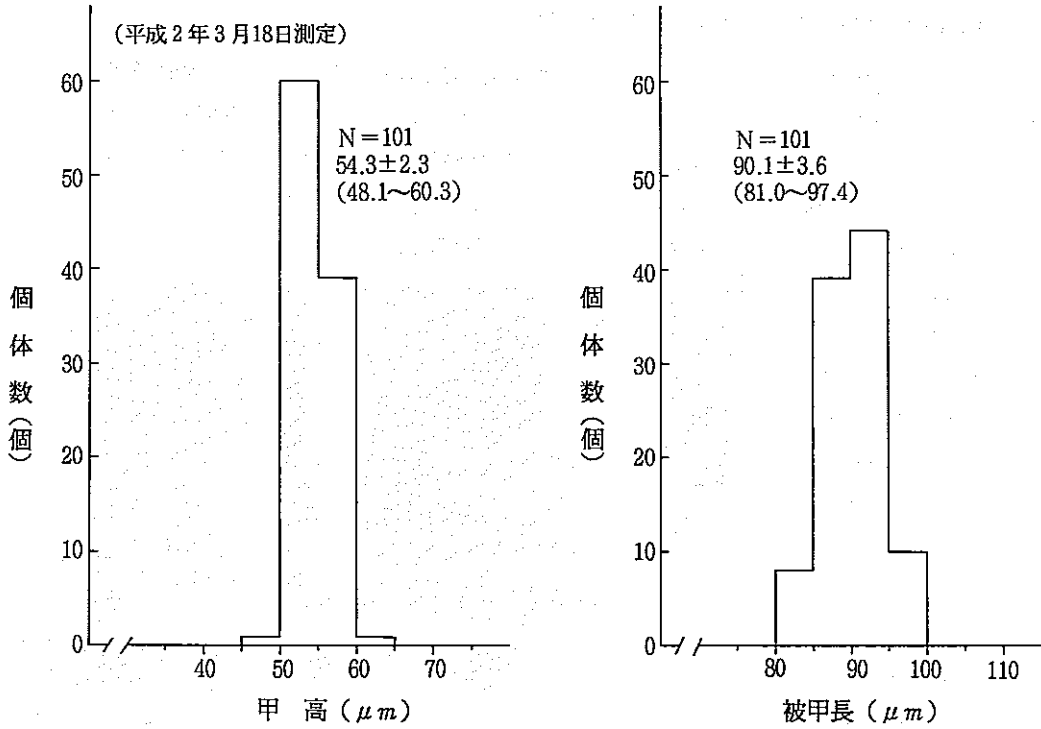


図1 西表島産ユビナガチビウムシの被甲長及び甲高の組成

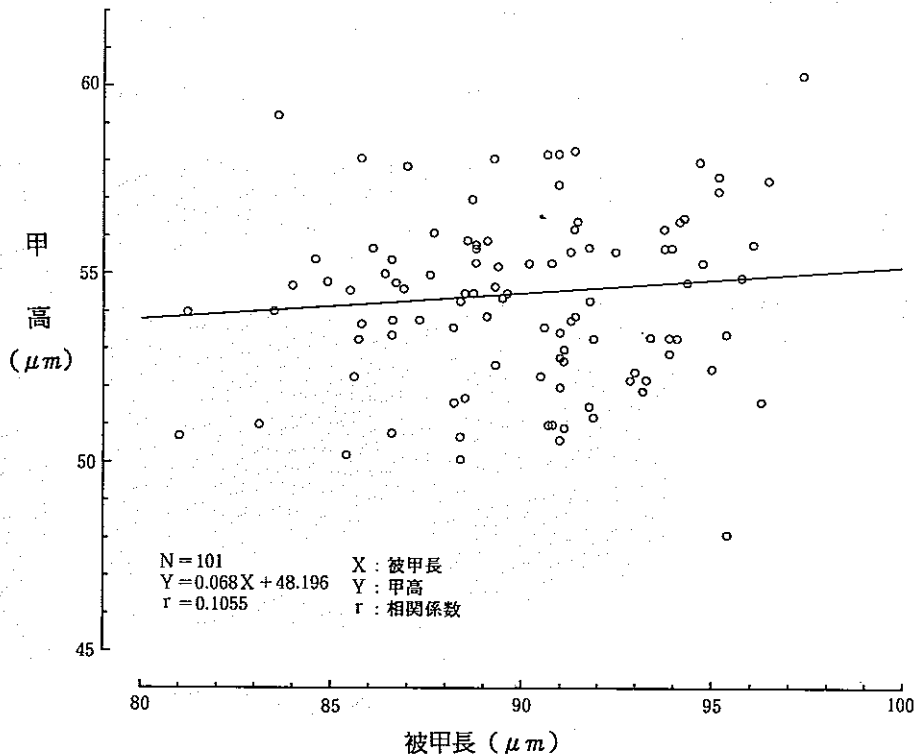


図2 西表島産ユビナガチビウムシの被甲長及び甲高の関係